■Major League Fishing Japan Open Tournament ルール

＜エントリーおよび参加資格＞

- MLF Japan Open Tournament はボーターとコ・アングラーのペア戦とする。
- ボーターは 18 歳以上で、なおかつ 2 級小型船舶操縦士以上の資格を有している者に出場資格を与える。
- コ・アングラーに年齢制限は設けないが、18 歳未満の希望者は保護者の同意書を提出すること。
- すべての出場選手は「スマートスケール」アプリを自身のスマートフォンにインストールし、登録を完了すること。また登録名はニックネームではなく、本名で行うこと。
- MLF Japan が主催するイベント（以下、イベント）では船体全長 18 フィート以上、エンジン 175hps 以上のボートを使用すること。
- 使用するボートは必ず船舶保険（対人、対物、搭乗者への補償があるもの）に加入していることを条件とする。
- イベントで撮影されたすべての写真および動画は MLF Japan に帰属する。撮影された素材は MLF Japan のライブ配信、ウェブサイト、SNS 各種、および印刷物などに使用する。
- 開催当日はライブ配信を実施する。したがって選手個人によるライブ配信はこれを認めない。また、YouTube 等 SNS 用動画の撮影を行いたい場合は、事前にオフィシャルの承諾を得ること。
- すべての出場選手は MLF Japan オフィシャルが定めたルールを理解し、遵守することを示す誓約書（エントリーシート裏面）に署名すること。

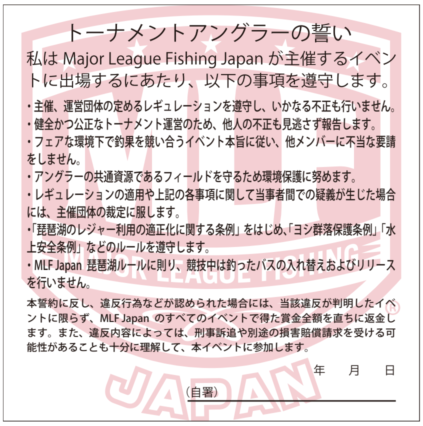
MLF Japan Entry Sheet

Event　MLF Japan Open Tournament

Name			Mobile Phone	
Entry	Boater・Co-Angler		Partner	
Boats& Engine			Engine Belt No.	
Tackle Check				
小型船舶操縦士免許			ライブウェル確認	
船舶検査証・船舶検査手帳			キルスイッチ	
船舶保険証書(写し)			ライフジャケット(桜印)	
法定備品	赤バケツ		トーナメントジャージ	
法定備品	救命浮環		スマートスケールアプリ	
法定備品	救命胴衣			
法定備品	信号紅炎			
法定備品	笛			

※右端の□にレ点でチェックする。該当しない項目には斜線を入れる。

エントリーシート（表）



トーナメントアングラーの誓い

私は Major League Fishing Japan が主催するイベントに出場するにあたり、以下の事項を遵守します。

・主催、運営団体の定めるレギュレーションを遵守し、いかなる不正も行いません。
・健全かつ公正なトーナメント運営のため、他人の不正も見逃さず報告します。
・フェアな環境下で釣果を競い合うイベント本旨に従い、他メンバーに不当な要請をしません。
・アングラーの共通資源であるフィールドを守るため環境保護に努めます。
・レギュレーションの適用や上記の各事項に関して当事者間での疑義が生じた場合には、主催団体の裁定に服します。
・「琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」をはじめ、「ヨシ群落保護条例」「水上安全条例」などのルールを遵守します。
・MLF Japan 琵琶湖ルールに則り、競技中は釣ったバスの入れ替えおよびリリースを行いません。

本誓約に反し、違反行為などが認められた場合には、当該違反が判明したイベントに限らず、MLF Japan のすべてのイベントで得た賞金全額を直ちに返金します。また、違反内容によっては、刑事訴追や別途の損害賠償請求を受ける可能性があることも十分に理解して、本イベントに参加します。

年　月　日

（自署）＿＿＿＿＿＿＿＿

エントリーシート（裏）

＜スポーツマンシップ＞

- スポーツマンシップとは、MLF Japan のイベントに出場する選手、または一般のアングラー（非競技者）、オフィシャル、スポンサー企業などに対する攻撃的、あるいは敵対的な行動、および個人に対する冒涜的な言動を指す。著しいスポーツマンシップ違反が現認された選手は出場資格を剥奪する場合がある。
- 魚の保護と保全は最優先事項とする。キャッチしたバスについても、無闇に抜き上げない、デッキに落とさない、などの配慮を常に行うこと。
- MLF Japan はオフィシャル、スタッフ、スポンサー、ギャラリーおよび漁業関係者に不利な影響を与える行為の一切を容認しない。
- MLF Japan に所属する選手はスポーツマンシップに則り、ルールとマナーの遵守、および安全第一と環境保護の精神をもってイベントに出場すること。
- プラクティスおよび競技時間中のアルコールまたは薬物の摂取は厳禁（ただし市販薬、または医師の処方箋による薬剤は可）。
- 他の団体から課せられた失格、出場停止、または懲戒処分の内容によっては、MLF Japan が主催するイベントへの出場を認めない場合もある。
- MLF Japan 琵琶湖ルールに則り、競技中は釣ったバスの入れ替え、およびリリースを禁止する。違反があった場合は即刻失格とする。

＜エントリーフィー＞

- MLF Japan Open Tournament のエントリーフィーは、一人¥35,000（税別）、1 艇につきボーター1 名、コ・アングラー1 名とし、Smart Scale から決済する。

＜MLF Japan イベント開催時＞

- タックルチェック
  - 受付前に、タックルチェックを実施する。所定の用紙（エントリーシート）に必要事項を記載し、裏面の誓約書に自署のうえオフィシャルに提出すること。不備があった場合はペナルティを課す。
  - イベント出場時に着用するライフジャケットは、桜マーク（国土交通省）がついているものに限る。
- 受付
  - 混雑を避けるため、速やかに受付を済ませること。
  - 受付ではスマートスケールの QR コード読み込みを行う。
  - エントリーシートを提出する。
- ミーティング
  - 規定の時間にミーティングを行う。
  - ミーティングではルールやエリアなどの説明および質疑応答を行う。
- スタート
  - スタート順は当日の朝、受付時に抽選を実施する。番号の若いほうから順にスタートとする。2 日目は初日のウエイトが高い方から順にスタートする（同ウエイトがいた場合は初日のフライト順の逆）。
  - オフィシャルに自分のスタート順と名前をコールされたら手を挙げて合図を送り、OK が出たあとスタートする。
- 帰着
  - 帰着時は混雑が予想されるため、船列に並んでいれば帰着時間を過ぎてもペナルティは課さない。ただし、プレーニングを解いていることを条件とする。
  - 船を係留後、先にスマートスケールの QR コード読み込みを行う。規定の時間内に読み込みをしなかった場合、帰着は完了していても失格・スコア取り消しとなるため注意。
  - 表彰式の時間はオフィシャルよりアナウンスする。時間厳守で出席すること。

＜イベントルール＞

- MLF Japan Open Tournament はボーター選手とコ・アングラー選手によるペア戦とする。
- イベントのスコアはボーターとコ・アングラーが釣ったバス 6 匹までのうち、3 匹の重量で競う。なお、競技中は入れ替え（リリース）を認めない。
- 出場選手はアクションカメラなどで自艇を撮影し、記録媒体を競技終了後、オフィシャルに提出すること。なお、撮影が確認できなかった際、スコアの取り消しおよび順位の降格となる場合もある。
- 出場選手は他の選手による規則違反の疑いがある場合、速やかにオフィシャルに報告すること。
- キャッチしたバスは 3 分以内にデジタルスケールによる計測を行い、10 分以内に「スマートスケール」による申請を完了すること。なお、緊急事態でない限り、移動後の計測は認めない。
- ボーターは常に安全な速度と操船を心がけること。同船のコ・アングラーに対しても、安全を第一とした配慮を行うこと。
- コ・アングラーは競技中、常にボーターの指示に従うこと。
- イベント中に緊急事態が発生した際は、オフィシャルに連絡したうえで対処を行うこと。また状況に応じて、海上保安庁 118 にも速やかに通報すること。
- 荒天予報時のイベント開催について、当日 7:00am 時点で「大津市小野」を基準とし、各天気予報アプリを参考にオフィシャル内で競技のうえ決定する。なお、Day2 開催日の予報で天候が回復することが予想される場合、期間短縮による開催とする場合もある。※台風などの影響で警報が発令されている場合は前日に開催の中止を決定することもある。
- 急な天候の変化によってオフィシャルが危険と判断した場合、競技時間を短縮する場合もある。また荒天の際は無闇に動かず、身の安全を最優先すること。
- 競技時間中、コ・アングラーの体調不良等で棄権となった場合、ボーターは速やかに当該選手を本部まで送り届けたあと、競技の続行を認める。
- ボーターの体調不良等による棄権となった際はコ・アングラーも棄権とし、その時点でのスコアを成績とする。
- エンジントラブル等により競技続行不可能となった場合、ボーター、コ・アングラーともに失格とする。

＜競技ルール＞

- Smart Scale に登録する本人画像は上半身、トーナメントジャージ着用、偏光グラスなしで撮影したものに限る。
- 対象魚はブラックバス（ラージマウスバス）のみ。
- ランディングネットの使用を認める。
- キーパーサイズは設けない。各日 6 匹までライブウェルにキープし、そのうち 3 匹の重量で争う。なお、競技中はリリース（入れ替え）を認めない。つまり 6 匹が揃った時点でストップフィッシングとなる。
- ラインをカットする、抜き上げる前にフックを外すなど、意図的なフックオフは厳禁。
- 釣り方はルアーに限り、フライおよびエサの使用は認めない（アラバマリグはフック 1 本、またはハードベイト 1 個のみ認める）。
- 一度に使用できるロッドは 1 本とする。ただしスタックしたルアーを回収する前に、異なるロッドを使用することはこれを認める。もし、スタックを回収する前のルアーでバスが釣れた場合、その魚はスコアの対象としない。
- 陸に上がっての釣りは禁止。ただしボートの位置を保持するため、木枠や護岸などに片足をかける行為はこれを認める。
- 本湖から見てひとつめの橋までは、下船して艇を押すことは禁止。
- 他の釣り人や湖川利用者に迷惑をかける行為および危険行為は厳禁。クレームなどの通報や他選手からの報告があった場合、事情を聴取したうえで処遇について運営本部で協議し、不問またはペナルティーを決定する。
- 魚への細工は厳禁。不正行為が発覚した場合、失格とする。
- サイトフィッシングによってキャッチしたバスは、口の中にフックが掛かっていることを前提とする。
- エンジンまたはエレクトリックモーターを使用したドラッキング（トローリング）は不可。
- 滋賀県の「外来魚リリース禁止条例」により、釣った魚の処理は自己責任とする。このほか「琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」「ヨシ群落保護条例」「水上安全条例」などのローカルルールにも各自でしっかり目を通して順守すること。

＜検量＞

- MLF Japan イベントはデジタルウエイインとし、スコア集計は「Smart Scale」アプリを使用する。そのため、参加選手（ボーター、コ・アングラーとも）は自身のスマートフォンに当該アプリのインストールおよび登録を必須とする。また登録の際、ニックネームは英語表記を原則とする。
- Smart Scale に登録する本人画像は上半身、トーナメントジャージ着用（所有していない者はこの限りではない)、偏光グラスなしで撮影したものに限る。
- 競技中に釣ったバスはボーター選手、コ・アングラー選手にかかわらず、必ず釣った本人が扱うこと。
- 検量の際、バスはフックを外した状態で行うこと。
- 検量はデジタルスケールにバスを吊るし、宙に浮いていることがわかる状態の写真を撮影する（①)。次にスコア（重量）がはっきりとわかる写真を撮影する（②)。最後に釣った本人がバスを持っている写真を撮影する（③)。この撮影は基本的にペアの選手（ボーター選手が釣った場合はコ・アングラー選手、またはその逆）が行う。釣った本人は①～③の画像を「スマートスケール」アプリで申請する。
- デジタルスケールの故障などにより計測できない場合はライブウェルにキープし、帰着時に本部立ち会いのもと計測を行うこと。
- ライブウェルに入れた魚のケアに細心の注意を払うこと。なお、デッドフィッシュはマイナス 500g のペナルティーとする（※デッドフィッシュとはエラが完全に止まっている状態の魚のことを指す)。
- アプリの立ち上げや計測するまでの間、魚を保護するという観点からライブウェルにキープする。
- 撮影中、バスがデジタルスケールから外れてデッキに落ちることのないよう、ライブウェルの上、またはランディングネットを下に構えるなどの配慮をしたうえで一連の行動をとること。

＜使用艇に関する注意＞

- 出場選手がイベントで使用する艇は船体全長 18 フィート以上、搭載エンジンは 175hps 以上とする。船舶検査証の記載事項と実際の使用艇に相違がある場合、MLF Japan が主催するイベントへの出場を認めない。
- 法定備品は必ず積載しておくこと。
- キルスイッチはライフジャケットに装着し、エンジンを使用するときのみセットすること。
- ガソリンについて艇に装備されているタンク以外の携行を認めない。万が一、競技中に燃料が不足した場合、オフィシャルに一報を入れ、承認を得たうえでの給油を認める。

＜成績について＞

- ボーター選手とコ・アングラー選手が釣ったバッグリミット 6 匹のうち、3 匹の重量によって争う。

＜エリアについて＞

- トーナメントエリアは琵琶湖全域。南限は近江大橋までとする。
- 各流入河川に制限は設けないが、1本目の橋から上流はエレキエリアとする。

＜釣り禁止エリア＞

- 琵琶湖大橋の橋脚を結ぶラインから 50m 以内は禁止。
- 琵琶湖内にあるマリーナ、および個人所有の桟橋での釣りは全面禁止。
- 滋賀県水上安全条例に基づき、近江大橋最頂部を支える 4 本の橋脚間とその周囲 10m は禁止。
- 陸上自衛隊大津駐屯地の岬先端から柳が崎沖の取水塔、浜大津港内（一文字堤防の内側）は釣りおよび進入禁止。ただし危険回避などの場合はこの限りではない。
- 浮御堂本体およびその沖側にあるポールの周囲 5m は禁止。
- 木の浜 5 号水路のオイルフェンスから内側は禁止。また、他の木の浜水路は流入河川と位置づけ、水路内はエレキのみとする。
- エリから 50m 以内の釣りは禁止。
- 堤防が 2 本ある漁港は、それぞれの先端を結んだ内側を禁止とする。港内へのキャストも禁止。堅田漁港は一文字堤防の内側および航路も釣り禁止。
- 浮き魚礁に向かってのキャストは禁止。

＜その他の釣り禁止エリア＞

- 柳が崎取水塔、びわこ大津館前桟橋～柳が崎ヨットハーバー（図１）
- 競艇場北側漁港周辺（図２）
- 浜大津港周辺（図３）
- 赤野井ハス畑
- 矢橋帰帆島水路内のオダ
- 犬上川取水口（赤ブイが目印。アナウンスが流れる）
- 竹生島船着場
- 尾上一文字内側（野鳥センターがあるため全面禁止）
- 近江舞子桟橋
- 真珠棚すべて

＜デッドスローエリア＞

- プレジャーボートの航行規制水域の指定に基づき、湖岸から 350m、黄色いブイの内側はデッドスローとする。また規制水域内は最短距離を静かに航行すること。
- 雄琴港
- 山ノ下湾
- 矢橋帰帆島水路
- 津田江内湖（※水門閉鎖時はエリア外）

図 1

図 2

図 3

2025 年 5 月 21 日版